

研修名 人権Ⅱ

平成30年11月12日(月) 10:00~12:30

講演 「人権が守られる環境づくり」

講師 文教大学 櫻井 慶一 氏



1 講演要旨

1) 保育における「人権」問題の背景

- ・物理的な環境を子どもの人権に配慮したものにできれば…
「生きる力」と「生き延びる力」

一人勝ちする力？親、保育教諭等はいらない？そうではない。他者と力を合わせてともに生きていく力である。自分だけよければいい、という考え方ではない。

- ・来年の10月から、保育の無償化が始まる。→利用者は増える。しかし、国が補償するのは国が抱える分だけ。市町村が抱える分はどうなる？本当に無償化はうまくいくのだろうか？→「保育格差」が生まれる？

2) 子どもの権利とは

- ・自尊心、プライド（自己受容感）→生きていく上で必要なもの。
- ・子どもの時のダメージを引きずって生きている。すると、小さなことで心が傷ついてしまう。いわゆる心の病。
- ・現代の子どもの生きている社会の問題に、誰も目を向けない。おかしいと思わない。（例：寝屋川の中学生男女殺害事件）
- ・地域の間が互いに気になる存在となれるように…。地域資源を活かして！
家庭の孤立を防ぎたい。
- ・将来自分の育った町に帰ってきてくれる子ども。

<別紙>

- ・荒れる学校。子どもの貧困の問題。
- ・小学校のカリキュラムに10の姿を組み込む。
- ・学童保育との連携もしっかりと行うこと。
- ・子ども食堂の目的…「家に帰っておうちの人につくってあげてね」→子どもの好きなものを提供するだけでなく、子どもがつくれるものを出すことで、生きていく力を育む。
- ・朝食カフェ…そこまでやるか？どこに視点を置き、何を問題としているのか？
- ・親の姿を見て、子どもは育つ。経済的貧困が、「勉強したってしょうがない…」というあきらめの気持ちを生む。→子どももいずれ貧困に…。**貧困の連鎖。**

3) 保育施設での人権問題

- ・マニフェストを園で作成する。（禁止用語や子どもへの関わり方などについて）
- ・子どもを非難されることは、親にとって自分のことよりもつらいこと。
- ・人格を貶めるような保育は絶対にしてはいけない！
- ・何気ない一言は、子どもの心にずっと残るもの。（悔しい、嫌だ、悲しい…）

4) 保育環境を考察する

- ・チームとしての力が大切。園として何を大切にしているのか？ } しっかりと統一を
個別に何を保障してくれるか？ } する。
- ・園の職員同士の人間関係…第三者からは見えにくいもの。
- ・園内、近隣の自然を有効活用して。園内にたくさんの自然を…。緑化、花、いろいろなコーナー。しかし、リスクも考えなければならない。園だけでは限界がある。子どもがのびのびと遊ぶことができる森を、市町村でつくれたら…。

5) おわりに

- ・理念を強くもって、保育、教育をしていく。
- ・ひとつひとつが、大きな目標につながっている。

参考：命のビザ

「紳士たれ」

6) 最後に…

- ・スウェーデンの保育→岩が多い国。子どもたちにとっては、岩場も遊び場！

2 感想

- ・櫻井先生の講演を聞き、現代の子どもが抱える貧困の問題や、そこから生まれる負の感情や学校生活などの不安定さの現状をより知ることができました。自分の幼少時代にはなかった問題が、今の子どもが生きる社会には溢れているということに、保育教諭として真剣に向き合わなければならないと感じます。子どもたちにとって、一番身近な大人は、保護者ですが、その次に近いのは子どもが通う保育施設の職員です。保育施設は、生活習慣や、ひとりの人間としての基本的な土台がつけられる重要な時期に子どもを受け入れる場所であり、職員はしっかりと人権感覚を磨き続けることが必要であると感じます。
- ・寝屋川での痛ましい事件や、メキシコの貧富の格差の問題、佐世保のベビーホテルの話など、事例をあげたお話はとても分かりやすく、また、心に突き刺さるような内容でした。自分の価値観とは大きく外れることが、他者にとっては当たり前な場合もあり、あるいは自分が当たり前に受けている「安定」を、受けられない人々がいる、ということに改めて感じました。
- ・子どもたちにとって、安心できる場、存在でありたいです。どうすれば、そのような存在でいられるのだろうか？と考えると、やはりチームとして園一体となって子ども一人一人を大切に見守っていくことが重要であると思いました。どの職員も、同じ温かさで子どもを包み込むことができればよいなど、思いました。子どもたちに、温かい思い出がたくさん残るような園生活を送らせてあげたい気持ちになる講演でした。ありがとうございました。



(記録 与謝野町立かえでこども園 木村杏美)